右のQRコードで
西村くにこの各種SNSに
アクセスできます！
ぜひ登録してください。

LINE　X（旧Twitter）　instagram（@KUNIKO_NISHIMURA）　Facebook

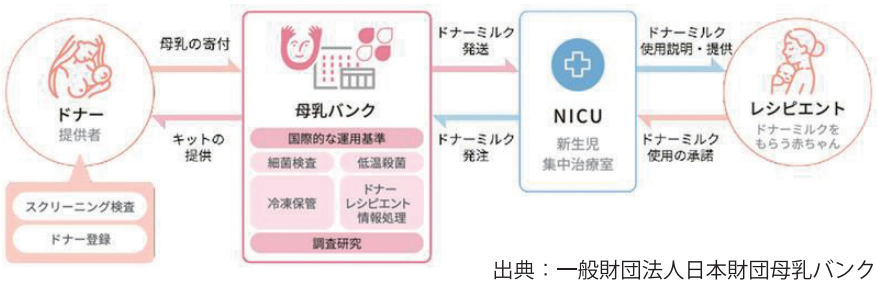
善意の母乳が救う 小さく生まれた「いのち」



日本では約１０人に１人が低出生体重児として生まれています。特に 1,５００グラム未満の赤ちゃんは感染症等のリスクが高く、母乳が有効とされていますが、母体の状況により自身の母乳を与えられない場合があります。その際、寄付された母乳を衛生管理し提供する「母乳バンク」の役割は極めて重要です。

母乳バンクとは！？

母乳バンクでは寄付された母乳を検査・殺菌し、ドナーミルクとして医療機関へ提供しています。県内では１０の病院が利用していますが、ドナーミルクは公的な仕組みに位置づけられておらず、病院側の費用負担が利用拡大の壁となっています。また、ドナー登録時の事務や検査への報酬が充分ではないため、登録施設も県内８か所にとどまっており、**西村くにこ**は県による財政支援を繰り返し求めてきました。



出典：一般財団法人日本財団母乳バンク

母乳バンク：自身のこどもが必要とする以上に母乳が出る方にドナー登録していただき、寄付してもらった母乳を、適切に低温殺菌処理、細菌検査、冷凍保管し、ＮＩＣＵの要請に応じて、「ドナーミルク」として早産・極低出生体重（体重 1,500g 未満）の赤ちゃんに提供する仕組み

県補助事業がスタート ドナーミルクの利用拡大へ！

これを受け神奈川県では、ドナー登録や利用ができる施設を増やし、必要とする全ての赤ちゃんにドナーミルクが届く環境を作るため、医療機関の負担費用を補助する事業費を令和８年度当初予算案に計上しました。あわせて知事からは、ドナーミルクが早期に国の医療制度に位置づけられ、安定供給の仕組みが確立されるよう国へ働きかけるとの答弁がありました。



代表質問後、母乳バンク支援の感謝を知事に伝える
左から　**西村くにこ**、神奈川県　黒岩祐治知事、ＮＰＯ法人 pena 坂上彩代表

小さな命に寄り添う。ひとりの声をきっかけに神奈川から始まりました。

●リトルベビーハンドブック



小さく生まれた赤ちゃんと家族に寄り添う「かながわリトルベビーハンドブック」。当事者の切実な声を**西村くにこ**が代表質問で代弁し実現。その後、全国で作成されるようになった。

●搾乳マーク



「搾乳マーク」は、赤ちゃんと一緒でないときでも授乳室で搾乳できることを示すマーク。県と当事者団体が共同作成し、１２月２４日に内閣府特命担当大臣表彰奨励賞を受賞。

「困難な状況にある妊産婦の居場所」を！

予期せぬ妊娠や経済的困窮、ＤＶ被害などで孤立し、支援から取り残されている「困難な状況にある妊産婦」が、県内に年間３０人程度存在することが判明しました。こうした母子の健康と住まいを守るため、安心して生活できる居場所の整備が急務となっています。

これを受け、県は令和８年度当初予算案に、支援が必要な妊産婦への援助事業費を計上しました。乳児院等での居場所や食事の提供、医療機関と連携した出産環境の整備を進めます。また、出産後も専門職が自立に向けた相談支援を行い、健やかな育児を支えます。



出典：県ＨＰ「妊娠ＳＯＳかながわ（県民向け）」